

(事後評価)

帯広・広尾自動車道
(一般国道236号)

なかさつないたいき
中札内大樹道路

事後評価結果準備書説明資料

令和元年度
北海道開発局

目 次

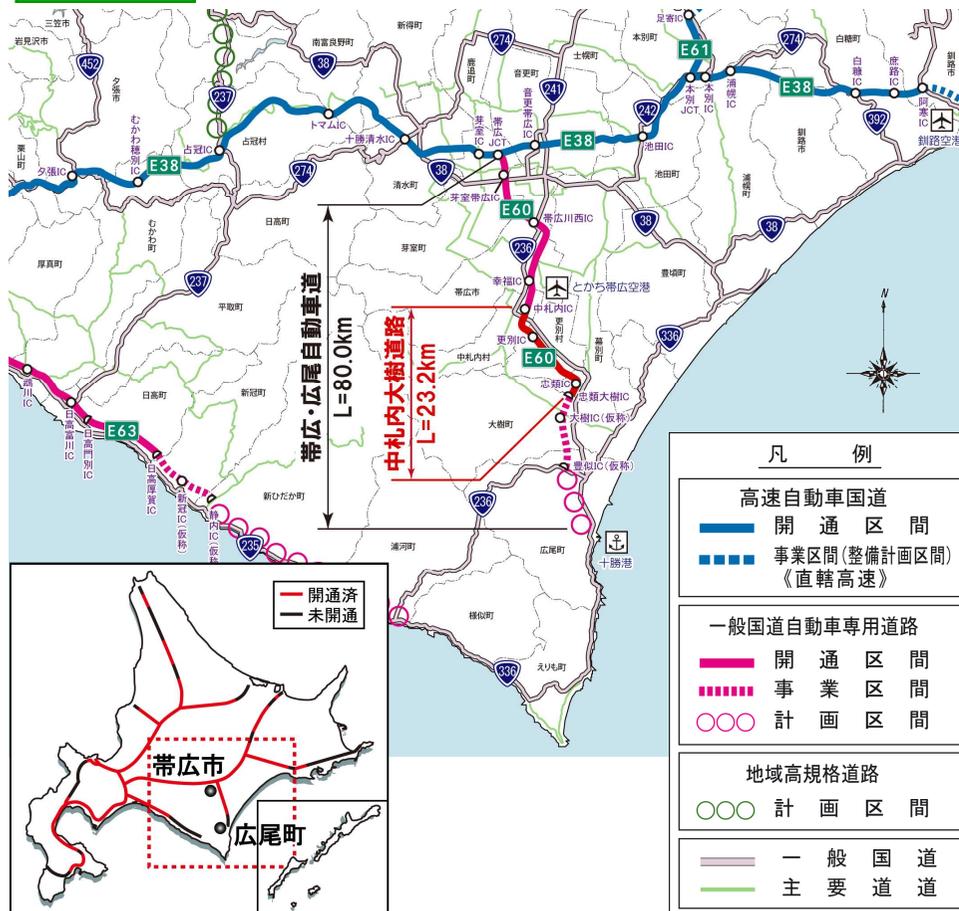
1. 事業の概要	3
(1) 事業の目的		
(2) 計画の概要		
(3) 経緯		
2. 社会経済情勢の変化	6
3. 事業の効果の発現状況	7
4. 費用対効果分析の要因の変化	14
5. 今後の事業評価の必要性等	16

1. 事業の概要

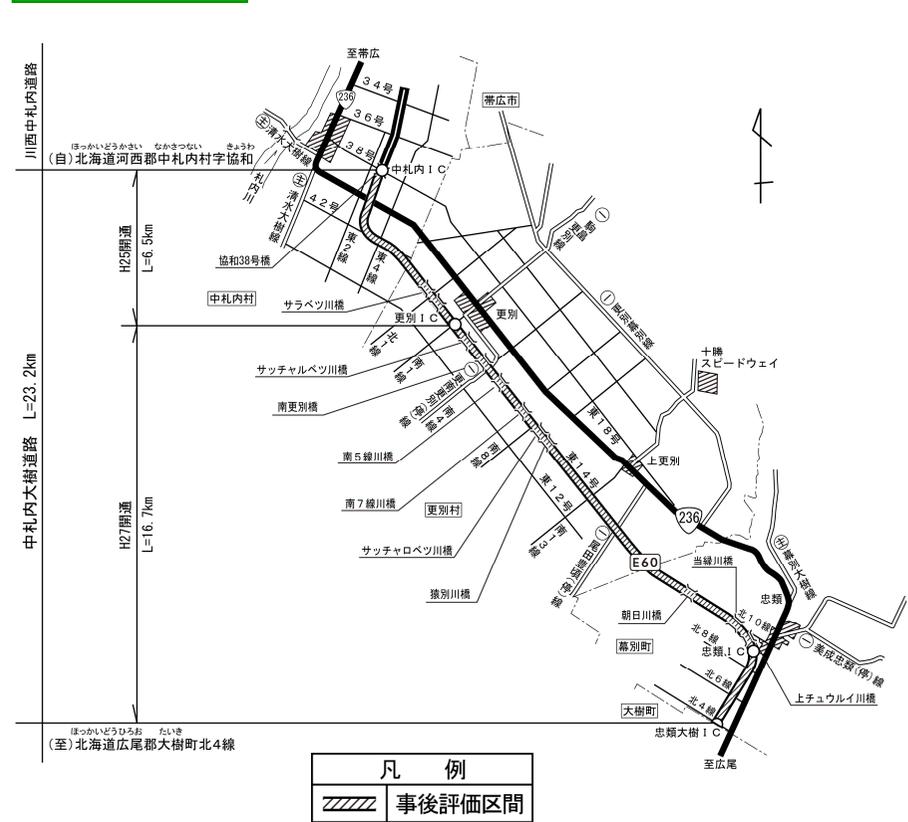
(1) 事業の目的

- ・帯広・広尾自動車道は、帯広市を起点とし、中札内村、更別村、大樹町を經由して広尾町に至る延長約80kmの自動車専用道路。
- ・中札内大樹道路は、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、重要港湾十勝港等への物流効率化の支援及び地域の活性化等を目的とした、中札内インターチェンジから忠類大樹インターチェンジに至る延長23.2kmの事業。

■位置図



■事業概要図



1. 事業の概要

(2) 計画の概要

①起点 ……ほっかいどう かさい なかさつない きょうわ北海道河西郡中札内村字協和
終点 ……ほっかいどう ひろお たいき北海道広尾郡大樹町北4線

②計画延長……23.2km

③幅員 ……13.5m

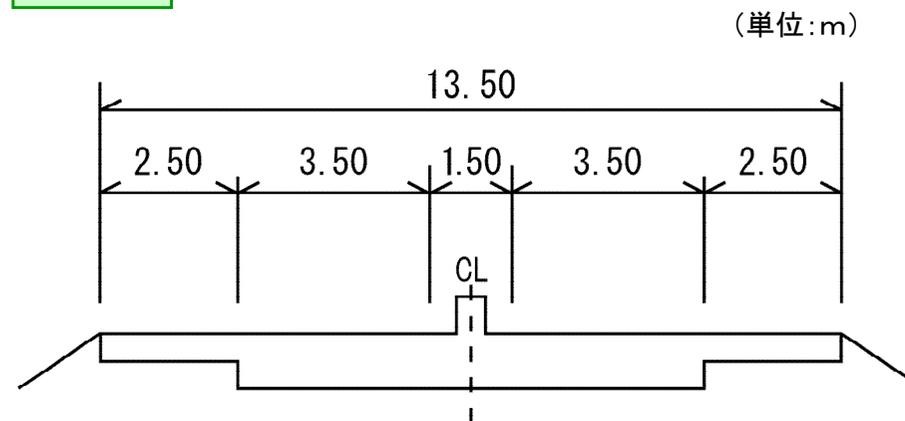
④構造規格……1種3級

⑤設計速度……80km/h

⑥車線 ……2車線

⑦事業主体……北海道開発局

■横断図



2. 社会経済情勢の変化

(1) 事業周辺地域の状況

北海道横断自動車道 釧路線
平成 7年～平成28年
千歳恵庭JCT～阿寒IC開通



写真: NEXCO東日本

北海道横断自動車道 網走線
平成15年～平成29年
本別JCT～足寄IC、
陸別小利別～北見西IC開通



写真: 釧路開発建設部

帯広・広尾自動車道
平成15年3月
帯広JCT～帯広川西IC開通
平成18年3月
帯広川西IC～幸福IC開通
平成20年11月
幸福IC～中札内IC開通
平成25年3月
中札内IC～更別IC開通
平成27年3月
更別IC～志類大樹IC開通
平成28年度
志類大樹IC～豊似IC(仮称)新規事業化



写真: 帯広開発建設部



シーニックパイウェイ北海道
十勝平野・山麓ルート 構成地域
トカプチ雄大空間 構成地域
南十勝夢街道 構成地域

平成18年2月
幕別町・志類村が合併

平成23年 3月
帯広空港 帯広-東京線の2社
乗り入れ(ダブルトラッキング化)

平成 7年
大樹町多目的航空公園整備
平成20年
JAXA大樹航空宇宙実験場整備
平成26年5月
宇宙交流センターSORA開設
平成30年4月
宇宙交流センターSORA
リニューアルオープン
令和 元年5月
日本での民間企業初の観測
ロケット「MOMO」打ち上げ成功



写真: 大樹町

平成16年度
十勝港内港地区国際物流
ターミナル整備事業:
大深度岸壁(-13.0m)
暫定供用開始
平成23年4月
配合飼料コンビナートが
本格始動
令和9年度
十勝港内港地区国際物流
ターミナルオープン予定

日高自動車道
平成10年～平成30年
苫小牧東IC～日高厚賀IC開通



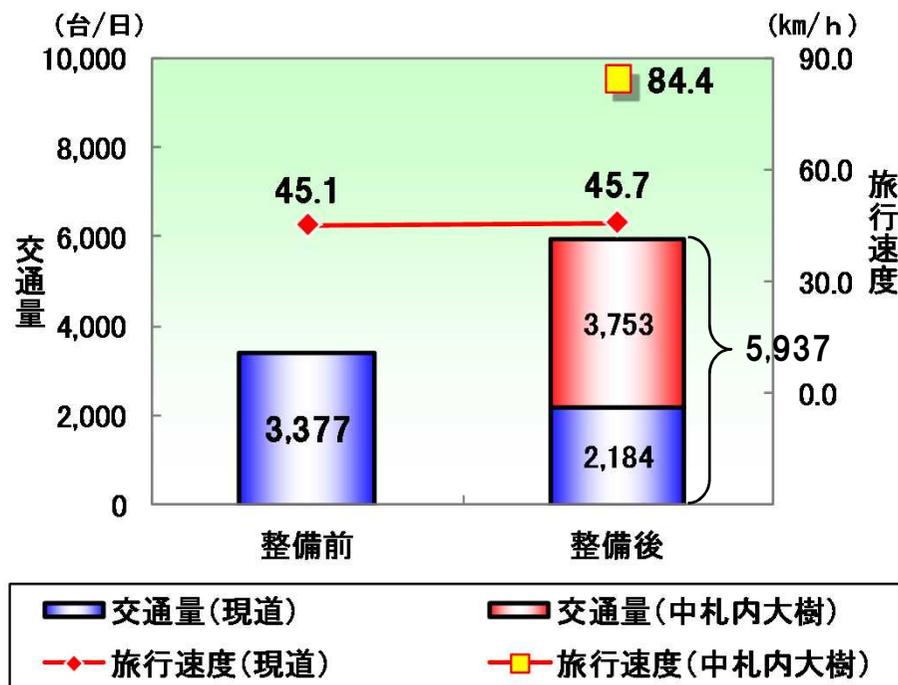
写真: 室蘭開発建設部

3. 事業の効果の発現状況

(1) 交通量及び旅行速度の状況

- ・当該事業区間の整備後における自動車交通量は、現道と当該道路を合わせて5,937台/日
- ・整備前後の旅行速度を比較すると、現道では45.1km/hから45.7km/h、当該道路では84.4km/hとなっており走行性が向上

【整備前後の交通量及び旅行速度】



※整備前はH22調査
※整備後はH27調査

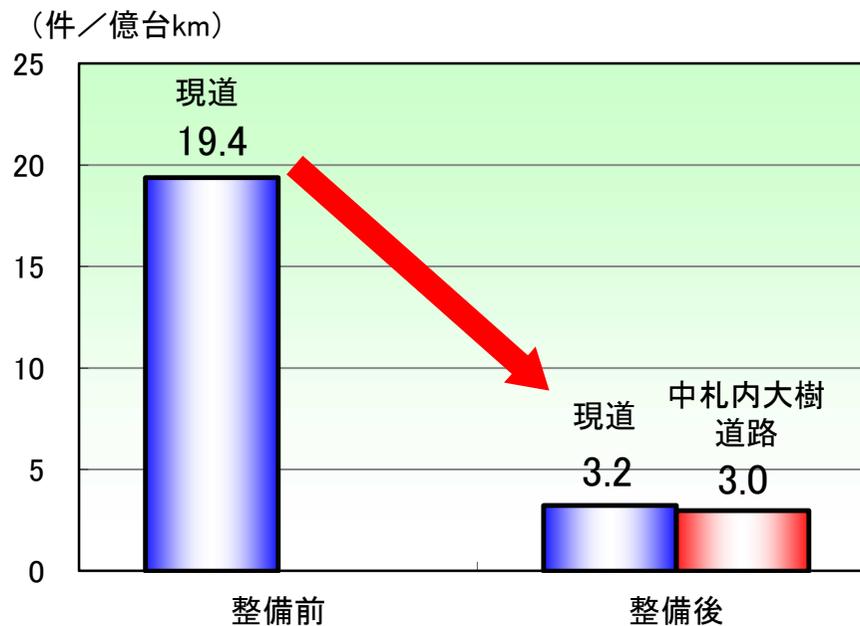
出典:全国道路・街路交通情勢調査

3. 事業の効果の発現状況

(2) 交通事故の状況

- ・当該事業区間の整備前後の事故率を比べると、整備前は19.4件／億台kmであったのに対し、整備後は現道が3.2件／億台km、当該道路が3.0件／億台kmと減少

【整備前後の事故率】



※整備前はH22～H24平均
※整備後はH27～H29平均

出典：帯広開発建設部調べ

3. 事業の効果の発現状況

(3) 事業効果の確認

事後評価にて確認した主な整備効果

- ・重要港湾十勝港の利便性向上（物流の効率化）
- ・救急搬送・地域医療の安定性向上
- ・日常活動圏中心都市の帯広市への利便性向上
- ・観光地への利便性向上

3. 事業の効果の発現状況

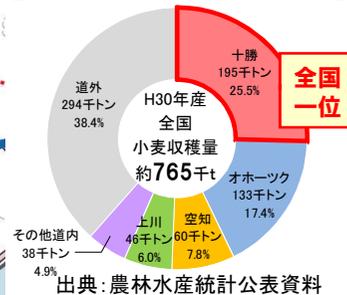
(4) 重要港湾十勝港の利便性向上(物流の効率化)

- ・北海道の肉牛は全国一のシェアを誇り、うち十勝地域はブランド肉牛登録数が多い。十勝港に輸移入される配合飼料は民間投資を契機に増加しており、農場への輸送利便性が求められている。
- ・また、十勝の小麦は全国一の収穫量を誇り、重要港湾十勝港等より全国各地に出荷。
- ・当該道路の整備により、周辺地域と十勝港の連携が強化され物流の効率化及び利便性が向上。

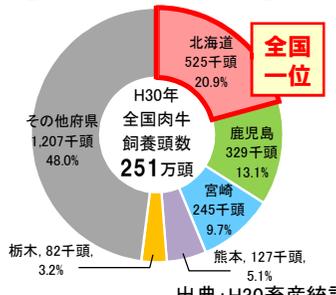
【十勝港～十勝地域の小麦・飼料物流状況】



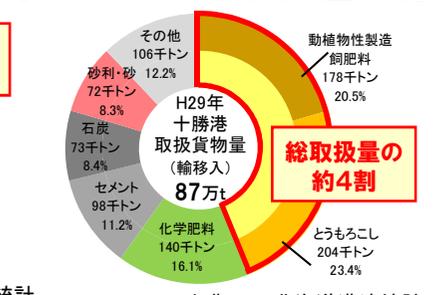
【小麦の収穫量全国シェア】



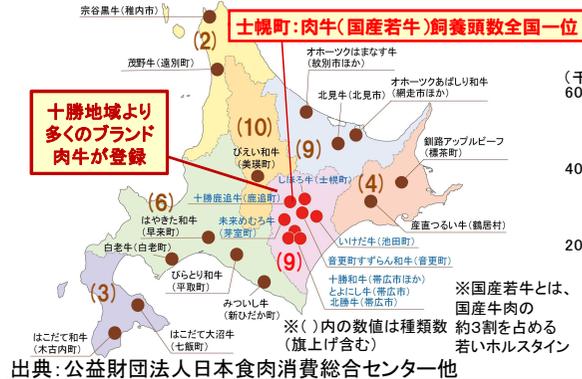
【肉牛の全国シェア】



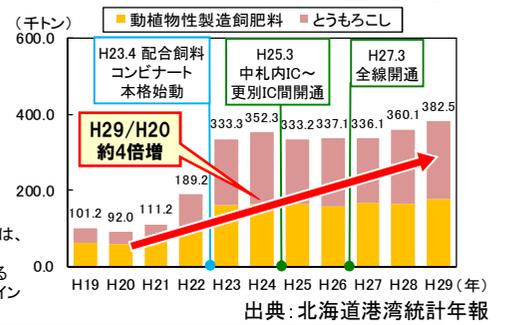
【十勝港の品目別輸移入量割合】



【全道のブランド肉牛登録数】



【十勝港における配合飼料輸移入量推移】



■**地域の声 (R1.8 小麦保管業者職員)**

・十勝全域から十勝港の巨大なサイロに、大量の小麦を半年以上にわたり搬入します。近年、効率性向上のため車両の大型化が進んでおり、より円滑かつ安全な輸送が課題となっていました。高規格道路を利用することでスケジュールが守られ、小麦の安定輸送のみならずサイロでの作業の効率化にも結びついています。

■**地域の声 (R2.1 飼料製造業者職員)**

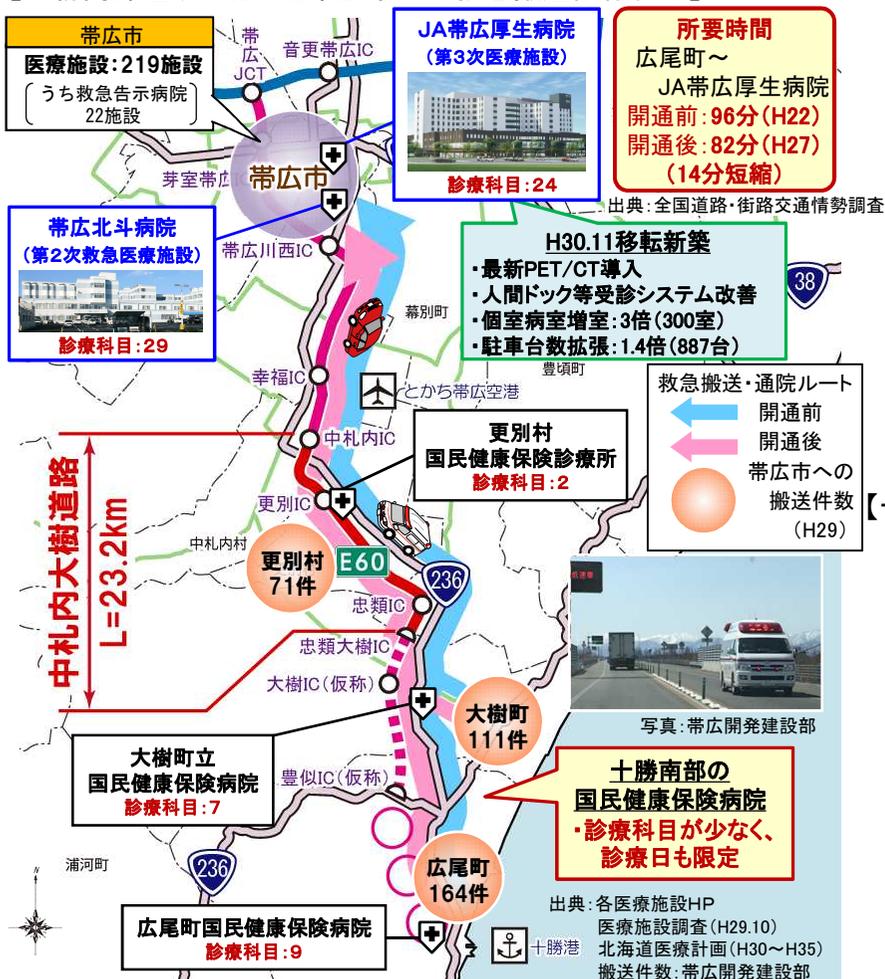
・忠類大樹ICまで開通したことにより、飼料の十勝等各地域への輸送利便性が高まり、輸移入量の増加に寄与しています。

3. 事業の効果の発現状況

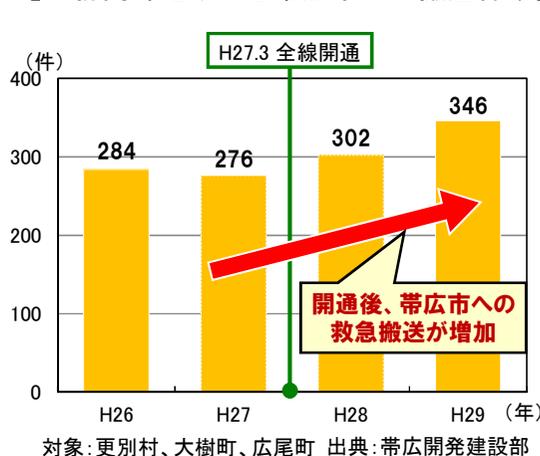
(5) 救急搬送・地域医療の安定性向上

- ・十勝南部地域では、救急搬送や通院において多様な診療科目を有する医療機関が集積している帯広市に依存しており、年間300件を超える救急搬送や月間約2千人もの通院を帯広市で担っている。
- ・当該道路の整備により、搬送時間が短縮し、帯広市への救急搬送が増加するなど、救急医療及び地域医療の安定性向上に貢献。

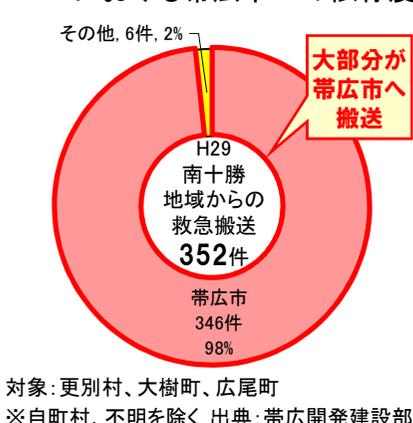
【十勝南部地域における帯広市への救急搬送依存状況】



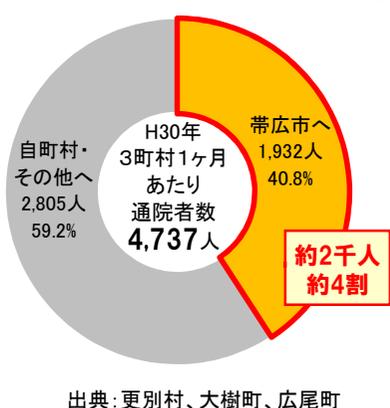
【十勝南部地域から帯広市への搬送件数】



【十勝南部地域の救急搬送における帯広市への依存度】



【十勝南部地域から帯広市への通院者数(1カ月あたり)】



■地域の声 (R1.9 大樹消防署)

- ・開通後、搬送時間が短縮されたため、厚生病院など帯広市内の病院に直接搬送するケースが増えました。
- ・帯広市内に搬送する場合は、100%高規格道路を走行しています。現道より振動やカーブの少ない当該道路を利用することにより、患者への負担が軽減されますし、救急車内での容体の確実で正確なモニタリングが可能になります。

■地域の声 (R1.9 広尾町役場職員)

- ・国保病院は診療科目が限られており、診療日が毎日ではないため多くの住民が遠く帯広市に通院しています。高規格道路のおかげで帯広市への通院において、心理的にも肉体的にも楽になりました。

3. 事業の効果の発現状況

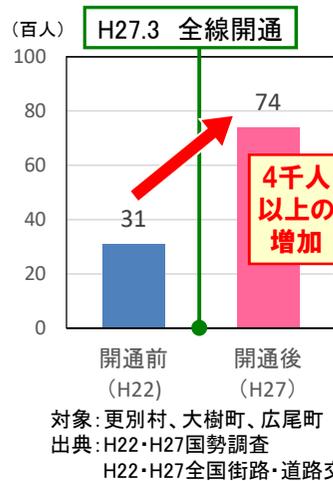
(6) 日常活動圏中心都市の帯広市への利便性向上

- ・当該道路は、十勝南部地域の住民の通学、買い物等の日常生活において、中核都市の帯広市に依存。
- ・当該道路の整備により、帯広市と十勝南部地域間の所要時間が短縮し、帯広市への1時間カバー圏人口の増加や通学割合の増加など、住民生活の利便性向上に寄与。

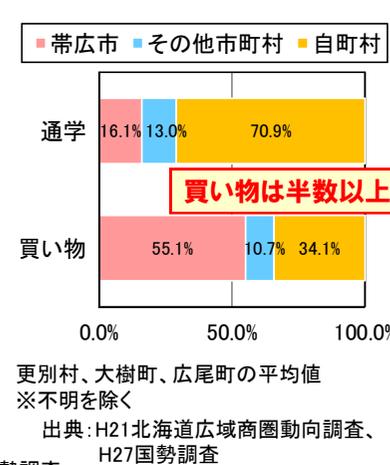
【十勝南部地域から帯広市への1時間カバー圏】



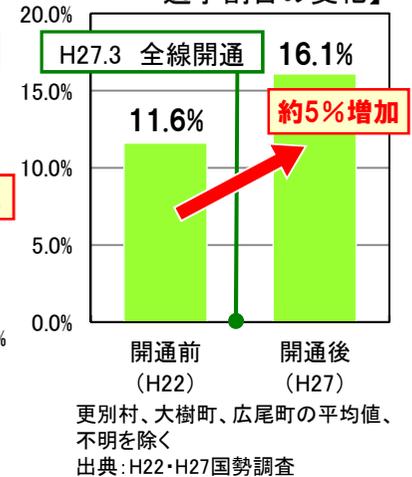
【十勝南部地域における帯広市1時間カバー圏人口の変化】



【十勝南部地域から帯広市への依存状況】



【全通学者のうち帯広市への通学割合の変化】



【中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービスとの連携】

高齢化が進行する生産空間において人流・物流を確保するため、道の駅「コスモール大樹」を拠点とした自動運転サービス実証実験をH29年度より実施。
R1年度: 拠点における地域交通との接続連携を目的とした都市間快速バス実験を実施。当該道路を利用するルートを採用。



学生から高齢者まで幅広い年代の利用を確認
⇒十勝南部地域の「生活の足」として有効に機能

■地域の声 (R1.8 大樹町住民)

・実家が帯広市内にあることもあり、買い物や子供の送迎など日常の生活において頻りに帯広市間を自家用車で往復しています。開通後は、時間短縮はもちろんですが、安全面からも高規格道路を必ず利用するようにしています。特に冬などは以前より気楽に帯広市に行けるようになりました。

3. 事業の効果の発現状況

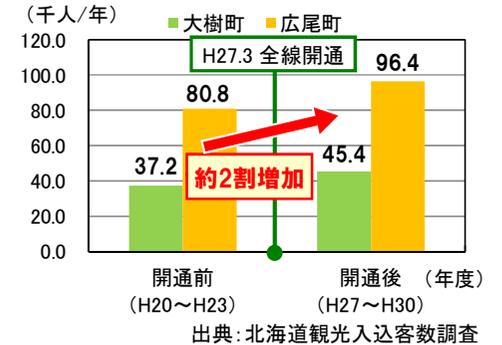
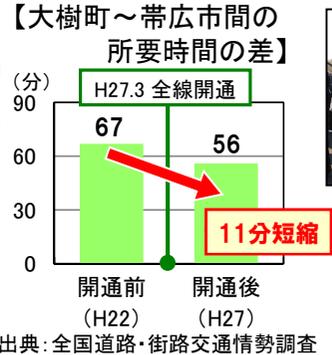
(7) 観光地への利便性向上

- ・当該道路周辺では、道の駅をはじめ植物園等の観光施設や航空公園が立地しており、観光ツアーが組まれるなど観光振興が盛んな地域が多く存在。
- ・当該道路の整備により、移動時間の短縮が図られたことで日帰り観光の選択肢が広がり、日帰り観光客が約2割増加したとともに近隣の「道の駅」への来場者が約6割増加するなど観光の活性化に寄与。

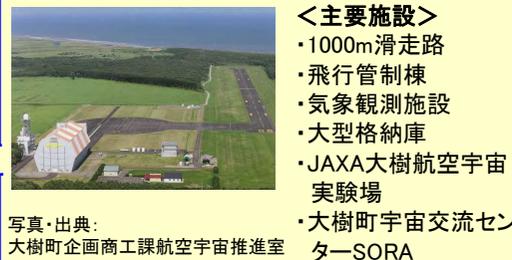
【当該路線を利用する観光ツアールートの一例】



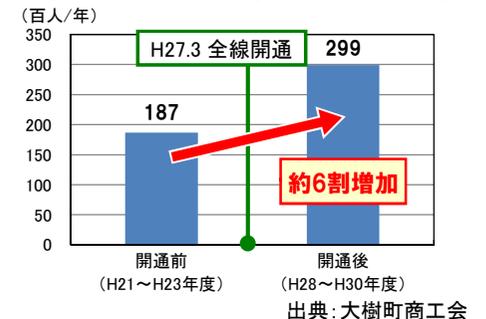
【民間ロケット打ち上げ一般観覧状況】 【大樹、広尾2町の日帰り観光客数の変化】



【大樹町多目的航空公園】



【道の駅コスモール大樹の来場者数の変化】



■ 地域の声 (R1.9 観光バス運行会社職員、道の駅職員)

- ・これまで十勝観光は中札内以北の地域が主体でした。しかし、高規格道路が延伸し、またロケット打上成功の影響もあり、新たな観光商品が企画販売されるようになりました。十勝全域を視野においた商品の開発を考えています。
- ・開通後、当道の駅に立ち寄るお客様が増えています。特にロケット打上前後などは商品が欠品するほどです。これは、高規格道路整備により札幌方面や帯広から来やすくなったことが一因と考えています。

4. 費用対効果分析の要因の変化

(1) 計画時との比較

	H16再評価時点 (計画時)	R1事後評価時点	備考 (計画時からの主な変更点)
事業諸元	L=22.0km	L=23.2km	・忠類IC設置に伴う線形変更による延長増(H21再評価)
計画交通量	6,800~ 7,100台/日	4,300~ 5,600台/日	・将来交通需要推計の見直し H16再評価時:H11全国道路・街路交通情勢調査(フルネット) R1事後評価時:H22全国道路・街路交通情勢調査(既事業ネット)
事業完了年度	平成25年度	平成26年度	・忠類IC新設及びルート部分変更による事業完了年度変更(H21再評価)
総事業費	約276億円	約450億円	・忠類IC新設及びルート部分変更による総事業費の増(H21再評価) ・排水性舗装採用及び道路附属物・函渠工・排水工・環境対策追加による増(H21再評価) ・土砂運搬計画及び縦断勾配見直しによる減(H24再評価) ・不良土対策工及び舗装工・土工計画見直しによる増(H25再評価)
総費用 C	約254億円 (基準年H16)	約691億円 (基準年R1)	※・総費用は割引率を用いて基準年の価格に換算(現在価値化)したもの ・「費用便益分析マニュアル」改訂(平成30年)による、時間価値原単位の見直し
総便益 B	約403億円 (基準年H16)	約737億円 (基準年R1)	※・総便益は割引率を用いて基準年の価格に換算(現在価値化)したもの ・「費用便益分析マニュアル」改訂(平成30年)による、時間価値原単位の見直し
費用対効果 B/C	1.6	1.1	・費用の増及び交通量の減に伴う便益額の減

※計画交通量は、R12将来交通量の推計値

4. 費用対効果分析の要因の変化

(2) 事業期間の状況変化による社会的損失額

費用増加額	便益減少額	社会的損失額
262.7億円	34.1億円	296.8億円

「事業遅延による社会的損失額」＝「費用増加額」＋「便益減少額」

「費用増加額」： 事業着手から実際の供用年次までの期間における「実績事業費の現在価値合計」と「計画事業費、維持管理費の現在価値合計」の差額

「便益減少額」： 遅延した期間に発生が想定される「便益の現在価値合計」

※基準年はR1で統一

5. 今後の事業評価の必要性等

○今後の事後評価及び改善措置の必要性

中札内大樹道路の整備により、高速ネットワークの拡充による近隣都市間の連絡機能の強化、重要港湾十勝港等への物流の効率化及び地域の活性化など当初の目的が達成されていることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないものとする。

なお、今後も利用状況の把握に努めるとともに、利用しやすい道路環境を確保するため、適切な維持管理に取り組んでいく。

○同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

地域住民との設計協議を重ねた結果、忠類ICの設置及びルートの部分的な変更により事業費及び事業期間が増加しているものの、道路利用者の利便性向上を図ることができた。

今後も、事業の実施においては、関係機関とも綿密に連携し進めていくことが重要である。

また、事業評価手法の見直しの必要性はないものとする。